

令和7年度 屋代南高等学校 学校評価(最終評価)

学校教育目標						評価	
校訓：誠実と自発							
教育方針 ①一人ひとりを尊重する教育を実践する ②自主性を重んじ個性の伸長を図る ③豊かな情操と自立の精神を育てる ④地域との連携を深め、郷土を愛する心を育てる							
重点目標(中・長期的目標)						評価	
学校生活や地域と連携した様々な活動を通して、主体的に学ぶ姿勢と健康で豊かな心を持った生徒を育成する。							
今年度の重点目標						評価	
1	生徒一人ひとりの規範意識を高め、自覚と責任ある行動を促し、人権を尊重する心を育て、いじめのない安心・安全な学習環境を確立する。			多くの学年集会等で指導を重ねたことで、生徒の人権意識を高めることができた。一方で、一部生徒の規範意識の低さが見受けられた。事案が発生した際は全職員が情報を共有し、よりチームとして対応したい。		B	
2	個々の生徒が志望する進路の実現を目指し、基礎学力の向上と、進路先で対応できる学力をつけるための、きめ細やかな学習指導を展開する。			タブレットや学習アプリを用いた新たな形態の学習指導を積極的に行ったことで、生徒の学習意欲向上へとつながった。個別最適な学びと協働的な学びを一体化した取り組みについて更に研究していく。		B	
3	生徒会活動やクラブ活動の活性化と充実をはかる。また、外部との交流も積極的にを行い、地域から信頼される学校づくりを目指す。			生徒会やライフデザイン科など、地域と関わる活動が例年通りできた。クラブ活動の活性化に向けた具体的な工夫については今後も大きな課題としていきたい。		B	
分野	評価項目	重点目標	評価の観点	現時点での目標達成、反省など	改善策・向上策	評価	
学習指導	基礎学力の向上	2	基礎学力を定着させるために「難しいことをやさしく、やさしいことを丁寧に教える授業」を展開することができたか。また、ICTを有効活用した自主学習等に取り組みさせることができたか。	年2回の授業評価アンケートにおける「授業内容が理解しやすいか」等の質問項目に対し、肯定的な回答が多かったことから、「わかる授業」のための環境づくりや指導等は概ねできたとと言える。一人一台端末を用いて生徒の知的好奇心や基礎学力の向上に向けた工夫、補足プリントの配信や課題の提出などを行うことで、ICTを活用した生徒の自主学習を促すことができた。	授業評価アンケートから、学習内容が深まるにつれ、授業についていけないと感じる割合が増えている。ICTの効果的な活用法、補習の在り方といった、個別最適化を図るための更なる工夫を考え続け、柔軟に対応していかなければならない。	B	
	より良い学習態度の定着	1	生徒の知的好奇心を喚起し、主体的に学習活動へ取り組めるよう工夫を重ねた指導をすることができたか。また、生徒が積極的に対話的な学びが行えるよう支援することができたか。	グループ学習やプレゼンテーションなど、様々な教科で生徒が主体的・対話的に取り組むための工夫された授業を行うことができた。また、探究に関する授業の視察を行い、情報を共有した。	各教科で実践している工夫や取り組みを教員間で共有する機会を設け、より一層充実した主体的で対話的な授業の実現を図る。	B	
	個に応じた指導の充実	2	生徒一人一人の学習到達度に応じて、補習等の指導や声掛けをすることができたか。また、個々の進路希望や実力に応じ、進路実現のためのきめ細やかな指導を行うことができたか。	生徒の特性に合わせた授業や個別指導を行うだけでなく、進学希望者向けの補習を学年ごと計画的に実施し、生徒の個別の進路希望に合わせた指導も計画・実施することができた。	進学希望先によっては時間をかけた指導が必要不可欠となるものもあり、入学時から先を見据えた計画、指導が大切になる。また、就職は社会情勢等の影響が大きく反映されるため、柔軟に対応できるように準備しておくことも求められる。	B	
	進路選択に応じた教育課程の研究・編成	2	選択授業等において、各生徒の多様な進路選択に対応できる編成をすることができたか。	生徒の進路希望に応じた選択授業を開講し、個別面談等を通して進路実現に向けた選択をさせることができた。	教科主任会を中心として、継続した審議を重ねていく必要がある。	B	
進路指導	キャリア教育の充実と進路意識の向上	2	健全な職業観育成を図るためにインターンシップに積極的に参加するように指導ができたか。また、進路講話・説明会・ガイダンスを必要に応じて開催することにより、生徒の進路意識を高め、各自の目標を定めることに繋がったか。	2年生の就職希望者と看護福祉系進学希望者を対象に、夏休みのインターンシップを行った。製造業・接客業など地元企業を知り、仕事が経験できる貴重な機会となった。就職支援員の方に7月～1月の間に週に数回来校いただいた。7月は3年生の就職の応募に関する支援をいただき、12月は2年生の就職に関する面談でより具体的な指導をいただいた。校内において業者による進路ガイダンスを学年ごとLHR等で行い、進路への意識づけを行うことができた。	インターンシップは就職への意識づけや企業調べをする有益な活動となるため、なるべく希望する企業や職種の内見や体験ができる貴重な機会となった。3年生は「進路の手引き」を全員購入している。1・2年生にも「進路の手引き」の必要箇所を印刷しクラスに配布して、推薦基準、準備すべきこと、日程、先輩の進路先などを早めに知らせ、進路への意識づけをさせていきたい。	B	
	多様な進路希望の実現	2	3年間を見通した進路指導計画を作成し、一人ひとりの希望進路実現に向けてきめ細かく支援することができたか。また、各種模試や補習を計画実施し、生徒の多様な進路希望にも対応することができたか。さらに、科目の選択の際に、希望する進路に合わせたガイダンス指導を適切に行うことができたか。	各学年において英国数を中心とした進学者補習を平日の放課後や長期休業中に行なった。また、年間計画にしたがって各種模試や、大学・短期大学・看護医療系の入試に向けた小論文指導と面接指導を、学年が中心となった計画し指導にあたった。進路業者主催の校外での進路ガイダンスが年々に数回あり、参加者は数名であるが自主参加している。校内での進学・就職ガイダンスを学年・進路係とて計画し取り組むことができた。	進路に応じた補習は学年や教科主体となっているが引き続き行っていく必要がある。また、小論文指導や面接練習は学年を超えて多くの教員に担当いただく必要があり、引き続き協力をお願いしたい。校外の進路ガイダンスへの参加は希望者で数名であることから、校内でのガイダンスを学年・進路で計画したい。2学年では分野別進学のガイダンスを5月に行い、1月には1・2学年就職希望者対象の企業説明会を行い、1学年では同時に進学に関する講話もおこなった。早い段階での意識づけをすることができ、今後の進路活動に繋がるようにしていきたい。	B	
	進路指導における校内連携および保護者との連携の強化	2	係・学年にとどまらない全校職員による進路指導体制を確立し、保護者に対しても情報提供、個別相談や相談を行う機会を設け、進路活動に理解や協力を得ながら進めることができたか。	3年生の就職対策では、外部講師や企業担当者、学年の教員により何度も面接指導を行い、内定を決めることができた。また進学対策では小論文指導・進学者補習など学年を超えて多くの教員に指導していただいた。2年の夏休みインターンシップでは、係と学年の教員中心に、企業との打ち合わせ・生徒への連絡を分担した。2年の春休みでもインターンシップを行う予定である。保護者懇談の時に進路状況や学費の説明など資料の提供ができた。	面接指導・小論文指導は3学年の先生を中心に、多くの先生方に協力いただき実施することができたので、引き続きお願いしていきたい。就職希望者は計画に沿って進めているが、進学希望者は個々の活動にゆだねることとなっているが、出願に向けての準備が進められるような対策を考えていきたい。1学期に進路だよりを発行し、訪問者の情報を中心にお伝えすることができた。年間での進路情報の提供ができるように工夫していきたい。	B	
生活指導・教育相談	暴力・いじめを許さない指導の徹底	1	入学時の指導や様々な集会・講演会、HR指導などを通じて、いじめ・暴力を未然に防ぐ指導が徹底できたか。	SNSの使用手法など年度当初に講師を招いて講演会を行ったり、学年や担任を中心に注意喚起を行ったりしたため、大きなトラブルはなかったが、暴言や暴力に関する事案が複数発生してしまった。トラブルを起こす生徒には特性をもっている生徒もいるため、特別支援に関する研修や生徒指導のあり方などを検討していく必要がある	講演会や日々の注意喚起は継続しながら、係や学年だけが指導を行うのではなく、ケースによっては生徒支援係や外部機関と連携を図りながら指導していく必要がある。また、問題となる多くは人間関係でのトラブルが発端となることが多いので、クラスや学年でのコミュニケーションを図りながら、人間関係を構築できる方法を模索する必要があると考えている。	B	
	交通安全指導の徹底	1	交通安全講習会、自転車点検、HR指導などを通じて、いのちの大切さと交通安全に対する意識を高めることができたか。	各学年入学時に交通安全教室や交通安全講話を実施し啓発に努めてきた。報告を受けている交通事故は2件あったが、幸いにも大事には至っていない。今年度はクドチャリダー指定校に任命され、千曲警察署に2度ヘルメット着用調査を行っていただいたが、いずれも着用率は低い状態となっているため、ヘルメット着用に関しては、さらに啓発活動を進めていく必要がある。	生徒会とも議論を進めながらヘルメット着用について議論を進めていきたい。	B	
	校内外における生徒の規範意識涵養	1 2	校内巡視・学校生活態度改善カード活用で、生徒の授業に取り組む姿勢を向上させることができたか。また、校外巡回指導により、駅・列車内・通学路での生徒のマナー向上が実現できたか。遅刻、身だしなみ、貴重品管理等の指導により、基本的生活習慣を身に付けさせることができたか。	昨年に引き続き空騒ぎが発生してしまった。巡視を行っていても、貴重品を出したままにしている生徒が多数見受けられ、危機意識の低さが見受けられる。また、今年度は公共マナーや喫煙行為など近隣からの苦情も複数あった。	貴重品に関しては自己管理ができるよう指導をしながら、HRや授業で規範意識を高められるよう指導をしていく。基本的生活習慣については担任だけに頼らず、授業や部活動などさまざまな活動の中で指導して行く必要がある。	B	
	悩みや不安を抱えた生徒の相談・支援体制の充実	1	学年・担当係と連携し、SCやSSWなどを有効に活用して、生徒・保護者に適切な支援を行うことができたか。	相談会議やアセス(学校環境適応感)アンケートなどから課題のある生徒を把握し、担任と連絡を取り合い、SCやSSW、外部機関に繋げることができた(SC:昨年度からの継続2名・新規9名、SSW:新規1名)。今後も早めに状況を把握し、支援に繋げていきたい。また、職員研修会の開催や外部会議への参加を通して適切な支援に対する教員側の理解も深められた。	今年度同様、定例の相談会議で課題のある生徒の情報を共有し、生徒に寄り添う支援を行ってきたい。継続的な支援が必要な生徒が多いので、次年度も県のスクールカウンセラー重点派遣校の申請を行い、今年度並のカウンセリング時間を確保する。	B	
生徒の自主活動	〔生徒会活動〕 生徒が主体的に活動するための適切な助言と指導	3	生徒会活動を通して、生徒が主体的に活動することを支援できたか。	毎週火曜日の執行部会で、様々な企画を検討し、生徒が主体となる支援をすることができた。今年度の生徒会基本方針「勇往邁進～一人一人の思いをひとつに～」により、昨年度並みの企画を実行することができた。	来年度も全校生徒が生徒会活動に携われるように、全生徒が委員会に所属することを引き続き行っていきたい。	B	
	〔クラブ活動〕 クラブ活動の活性化	3	生徒がクラブ活動に求めているニーズを的確に判断し、クラブ活動が活発化するために必要な手段を講じることができたか。	4月には、クラブオリエンテーション、クラブ見学、クラブ結成式を実施し、新入生に対する勧誘ができた。部活動アンケートを行い、実態を調査した。10月におけるクラブ加入率は1年31%、2年21%、3年27%だった。1年の加入率が上がった。	クラブ加入への呼びかけを学年にお願いしながら強化するとともに、部活動アンケートを定期的に行いたいと考えている。また、入部した生徒が3年間クラブ活動を続けていけるような対策を学校全体で検討していきたい。	B	
学校運営	開かれた学校づくり	地域との連携と情報提供	3	地域と連携した様々な活動を通して、地元の方々との信頼を深めることができたか。	今年も昨年に引き続き地域文化伝承活動「科野のムラお田植え祭」に参加することができた。また、平成20年より続いている屋代駅のイルミネーション設置については、地元の方々と交流する機会となり良かった。本年度も赤い羽根共同募金を全校に呼びかけ、約12,000円を千曲市社会福祉協議会へ寄付することができた。そのほか、自転車のヘルメット着用に対する啓発活動に参加するなど、学校外での活動に積極的に参加することができた。	地域行事への参加も長く続いている伝統があるため引き続き大切にしていきたい。地域への行事参加や交流について、興味関心をもっている生徒が増えているため、全校に呼びかける機会を増やしていきたい。	B
			1 3	地域の教育力を様々な場面で活用することができたか。	外部講師の活用や生徒会活動などで地域の教育力を活用する取り組みができた。	できる限り地域行事への参加や外部講師の活用を進めていきたい。	B
			1 3	HP等を通じて、本校の活動に関する情報をわかりやすく提供しているか。	HPの更新を随時行い、多くの情報をわかりやすく提供することができた。	今年度と同様に積極的にHPの更新を行う。	B
	保護者への情報提供	保護者への情報提供	1 2 3	HPや電子媒体等を通じて、本校の活動に関する情報をわかりやすく提供しているか。	HPを積極的に活用し、学校内外での生徒の活躍について随時提供することができた。	より多くの保護者に生徒の活躍や学びの様子を知っていただける工夫を重ねていく。	B
			1 2 3	保護者や学校評議員による評価をもとに教育活動の改善を図れたか。	12月に保護者による学校評価アンケートを実施した。約9割の全体回答率を得て課題の改善を図った。	アンケートで指摘された事柄を検討し、さらなる改善を図っていく。	B
			2	学習指導及び進路指導充実のための研修会を実施できたか。授業改善のための相互授業見学・研究授業を実施できたか。	中学生向けの公開授業を2回実施するとともに、10月にはNIE担当者授業参観および9月に初任研の研究授業を行った。	職員研修や校内向けの授業公開期間を設定するなど、教員相互での研修を積極的に進めていく。また、校外の研修会へも積極的に参加し、他校で行われている先進的な取り組みについて学びを深めていく。	A
	校内研修	職員への資質向上に関わる研修	1	多様化する生徒を理解し、人権意識を高めるための研修会を実施できたか。	生徒支援係として、生徒理解のための研修を実施した。	生徒の実態に応じて、必要な研修を行っていく。	B
			1	綱紀粛正に努め、信頼される教職員集団として活動するための研修会を実施できたか。	年間を通して職員会議の中で、管理職よりコンプライアンス等についての研修を行った。	職員一人ひとりが自分事と捉え、職員同士で学びあう機会が持てるような職員研修の計画立案をしていく。	B
			1	生徒の安全な学習環境を維持することができたか。	適宜、校内環境の整備を行えている。	校内安全点検を継続し、必要に応じて修繕をしていく。	B
	安全管理	校内の危機対応の周知徹底	1	緊急時対応の方策を確認するなど、危機管理意識を高める取り組みができたか。	10月に防災訓練を実施した。また、校内内規を見直した。	防災のみならず、防犯対策等も含めた実践的な対応を検討していく。	B